

大阪女学院大学「教職課程」産声をあげてから1歳に

中井弘一

赤ちゃんが生まれて最初に発する泣き声を産声と言う。医学的な説明によると、赤ちゃんが初めて自分の肺で呼吸をする瞬間、それが産声で、自らが呼吸をして生きていくための準備が整った瞬間であるとのこと、新しい環境に適應することができた証である。

昨年1月25日 文部科学省の認可を受け、本学4年制大学の教職課程が産声をあげて1年が経った。開設に当たっては、OJC 教職のミッションを確立するため、本学の教職課程のビジョンについて他学に見られない方略的な実践活動を入念に設計した。学校現場の先生が日々向きあっている課題の一助となるよう役立つ情報の提供や講習活動を行い、本学の教職課程の「信頼」を築くことをその一番の理念とした。

大阪女学院大学 教職課程・教員養成センター ブランド確立のための方針

「信頼性」

教職課程設置理念
財政的・人的に教育費の大きい大学と比べて、定員がわずか150人（×4 学年）の小規模である本学が、大規模・中規模校と並んで教職課程を設置するには教員養成に対する強い意志と高い努力が必要である。教員養成においては、小規模校のきめ細やかな教育・人的資源の活用、教職サークル活動、卒業生や教員によってからの英語科目指導法や教材開発の積極活動等を実施することで、教職志望者一人ひとりに教職の責任の重さを感じ取り、認定させると同時に学習指導のための実践的・実践的・実践的の若英な指導を受け、小規模校ならではの教員養成課程の一モダンな姿を築き上げる。

① 豊かな人間性と社会性を育む教育理念をもとに醸成された英語力を有する本学の学生の中から、未来を担う生徒の教育に貢献する人材を送り出す。
② 教職課程（指導法養成を含む）の学習を通じて教育現場や教員の仕事の難しさを知り、生徒及び人間の根源的な理解を深めるばかりでなく、自己理解と自己実現の場とする。
③ 教職に就かなかったとしても、豊かな教員として、地域の教育を支える市民の一人として、学校教育の良き理解者となり、日本の未来をつくる教育を支える後進となるよう期待する。

・ 授業力向上のための研究開発を推進すること
・ OJC オナジナルで教職工夫のある活動を行うこと
・ コースに応じた迅速な対応と積極的な柔軟な対応

・ 確かな指導力に裏打ちされた教育を行うこと
・ 教職課程設置理念・趣旨を守ること
・ 誠意ある指導と対応を行うこと

学内：授業力を高める教育内容・きめ細やかで工夫のあるサポートの実践

「教職授業の充実」
・ 教職への自覚を促す教育内容
現代の教員科目「教育と人間」を1年次に受講
・ これから教員に必要な資質能力を育成する内容
『英語科指導法』『英語科教育法』による教職課程の理解と実践でのあり方理解
・ 授業力を高めるための具体的な取組を奨励する実践講習
「教育方法の理論と実践」授業デザイン・スキルアップ講習などによる実践的な指導

「OJC 教職サークル活動」
・ 教職サークル活動を通して、授業で活用できる教材の取組作成や教育専門書リスト管理を行い、教職課程における授業の支援を行う。
「OJC 教職サークルアライアンス」というポータルサイトを有し、担当教員による英語活動を行う。
・ 学外研究発表への参加と報告書の提出
「教員養成研究」などの報告書を実施し、幅広い視野を育成する。

「教員採用試験対策」
・ 2 年次から3 年次、一般教員採用としての国語・数学などの対策を始める。
・ 2 年終了時に教職課程履修要件として学内での資格取得試験を実施する。
・ 3 年次より教職科目対策
面接指導を行う
・ 教員採用試験対策公開講座の実施

「英語力の充実」
・ 「国語・英語」並進としての英語力の育成
Grammar, Phonetics, Topic Reading, Theme Studies, Study of Current World Events 等
・ TOEFL550 点、TOEIC730 点以上の英語力と教職力の育成

「介護体験活動」
・ 「小学校及び中学校の普通免許授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」として定められた介護活動（P）対応を実施する

「学校フィールドワーク活動」
・ 初等中等教育（幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、高等学校）の現場に赴き、学習支援、野外活動支援、文化活動支援、部活動支援などを課外無償ボランティアとして行う。

「教員としてのコミュニケーション能力を育成する」
・ 実践的な指導力を身に付けさせる

学外：現場に役立つ教育情報の発信・現職教員との協同活動の実践

「OJC 教員養成センターHPの充実」
・ 英語教育情報エッセイ（毎月更新）
・ 教育ニュース発信（隔年更新）
・ 英語教育参考書紹介（隔年更新）
・ 授業の玉手箱・実践指導例紹介（毎月更新）
・ 自作リスニング・リーディング教材

「OJCJTN」 OJC 教職ネットワーク
Osaka Jogakuen College Teachers' Network
・ 現職の学校教員との協同研究開発を通して、授業力の向上を図るための教材研究発表、授業案、教材作成、役立つサイト情報収集活動を行う。
・ 教材開発や指導法の研究に努め、学校現場に提供する。

「教員養成センターNewsletter 発行」
・ 現職教員の声を掲載した特集記事を編集することにより、教員の関心を高めると同時に教員のやる気を高める。現場に役立つ記事の発信により、本学の英語教育情報ある教職への取り組みを評価してもらう。
・ 本学関係の研修・講座などの紹介を行い、本学の取り組みの理解を促す。
・ 年3回（4/9/1月）発行

「教員研修・講座の実施」
「授業デザイン・スキルアップ講習」
・ 夏季集中講座として、現職教員向けの講座を開催する。本学教職課程履修生も受講させ、協同の学びの場を創る。
・ 「教員免許更新講習」と併せて実施する。
・ 教員養成センター担当以外の本学教員や外部教員にも講座を開催していく。

「MLによる情報配信」
・ OJC 教員養成センター一環の教育関係ニュースや教材紹介、勉強会での実践事例などを配信する。
・ 教職の教員の教材指導法や教育課題の声を聞き取る。

「勉強会の実施」
・ 毎月第三土曜日の「教員研究会」を開催予定し、現職教員や本学教職課程履修生で、効果的な指導法について発表や討議・勉強会を行う。
・ 発表事例は整理してまとめた、実践報告集に掲載する。

「実践報告集の発行」
・ 勉強会や授業実践の報告集(40 ページ)を毎年まとめた、現場に配付する。
・ 現職教員の日々の授業を知り上げ、共有しやすい内容とする。実際に役立つ報告集を心がける。

2010 年度、その方針の実践として様々ことを試みてきた。教員養成センターNewsletter 創刊号〜第 4 号まで発行。開設記念研修や教員免許更新講習の実施。学校現場の先生を交えた学校現場の視点に立った内容の勉強会を 7 回開催。学生もアクセスできる本学教員養成センターのHP (<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>) による英語教育情報提供の充実。担当教員による教職課程履修学生向け週 1 回〜2 回の教職サークル実施等行ってきた。

さて、今の日本、「内向き志向」「ことばの力の低下」「もの豊かさとの心貧困」「収入格差と教育格差」「学級崩壊」「放任家庭教育」など、様々な教育課題が山積している。自信を喪失し明確な将来の夢や目標を描けない若者が次第に増えている。また、規則を守る意識が薄

れ、学ぶ意欲も低下しているように思われる。この「崖ぶつちの日本」を何とかしなければならぬ。子ども一人一人の自己実現、夢と幸福の追求には、親子のふれあい、友達との遊び、地域の人々との交流が必要である。そしてその根本として教育の力が欠かせない。

満一歳になった教員養成センターは、赤ちゃんのこの世に生まれた純粋な微笑みを忘れずに、こうした現代社会の諸相を踏まえ、学校現場の先生が求める英語指導のあり方を基底に、一層「信頼」される教育活動を展開し、活力ある教員を生み出すためにさらに努力を重ねていきたい。